



「稲刈り」 黄金に色づいた稲穂が輝く “収穫の秋”

「実るほど 頭を垂れる 稲穂かな」(みのるほど こうべをたれる いなほかな)
く 立派に成長した人間、つまり人格者ほど頭の低い謙虚な姿勢であるという意味のことわざ)

「収穫の秋」…、黄金に色づいた稲穂が輝き、風になびく風景はとても美しいものです。昨日、5月末に田植えをさせていただいた野村康治さんの学校田で、稲刈りが行われました。田植えについては、低学年は高学年に手ほどきを受けながら作業をしましたが、今回の稲刈りは、昨年同様に児童の安全面などを考慮し、4年生以上が参加して整然と稲刈りを行いました。右手に鋸鎌を持ち、稲株を左手で握って、順次刈り取りながら移動しました。その後、最新のコンバインで「脱穀」(だっこく)が行われ、これから先、「粃摺り」(もみすり)、「精米」(せいまい)を行うこととなります。



「未確認飛行物体：UFO」目撃 米海軍「本物!？」

空中を高速飛行する未確認飛行物体(UFO)をとらえたとされる映像について、米海軍がようやく、未確認物体に分類していることを確認した。正体不明の物体は、軍の機密指定が解除された3本の映像に映っている。海軍報道官はCNNの取材に対し、この物体を「未確認航空現象(UAP)」と形容した。映像は2017年12月～18年3月にかけて公開されたもので、高速移動する長方形の物体を、高性能赤外線センサーがとらえている。このうち2004年に撮影された映像では、センサーがとらえた物体は急加速して画面の左側に消えていた。センサーは物体の速度に追いつけず、再発見することはできなかった。残る2本は2015年の映像で、戦闘機のパイロットが交わした「ドローンだ」「全部風に逆らってる」という会話が収録されている。



海軍報道官によると、UAPに関する情報公開の目的は主に、パイロットの安全を脅かしかねない訓練空域への「侵入」について、訓練生による目撃情報の報告を促すことにある。公開された映像がとらえているのは、海軍の訓練空域で頻繁に目撃される侵入事案のほんの一部にすぎないと報道官は強調。「長年の間、海軍のパイロットはそうした侵入事案を報告してこなかった。映像中に存在する、あるいは存在しないものに関する従来の用語や仮説には、パイロットの名誉を損なうような固定観念が付いて回ったからだ」と述べ、UAPの正体を探るためには、そうした物体を目撃した訓練生に報告を促すしかないと話している。

9/19「CNN.co.jp」